

子どもといっしょに大きくなろう

# 酒田っ子すくすく子育て講座

バックナンバー

第2回

## 「叱る」と「怒る」

東北公益文科大学教授 國眼眞理子

「子どもを叱ってもいいんですか」

あるお母さんが、子育て中の若いお母さんからこう問われて面食らったという話をききました。

「褒めて育てる」とか、「叱るより褒めよ」という言葉をよく聞く今、「叱ってはいけない」と思うことや「叱ってはいけないのだろうか」と戸惑うことがあるのかもしれません。

子どもが幼いときほど、親は優しく包容力があって温かいというイメージが勝り、「優しいお母(父)さん」と「叱るお母(父)さん」が両立しにくいのでしょう。

一方で、幼稚園や保育園の先生からは、子どもたちには「叱られた経験」が乏しいのではないかという話をよく聞きます。大人の思うように子どもが行動しないときに、感情にまかせて腹を立てて声を荒げる(つまり「怒る」「怒鳴る」)のは論外としても、これから独り立ちする子どもにとって、人と共に生きる社会のルールを教えてくれるもっとも身近な存在、それは保護者です。子どもが人に迷惑をかけたり、人を傷つけたりしたときに、わが子に嫌われたくないとか、その心を傷つけないからといって、優しい親でいることはできません。

自分のことを絶えず気にしてくれる人がいる。しかもその人は自分のことを大切にしてくれるということが子どもに伝わっていれば、叱っても良いのです。ただ、その時々で怒るのではなく、何がまずかったのか、どうしたら良かったか、親としてはどうしてほしいのかがわかるように叱りたいものです。

「叱る」と「怒る」の違いを頭に置きつつ普段から意識して「それでいいよ」と認め、褒めることが大切です。



イラスト：戸村美紀